

2022年3月2日

## 立命館慶祥高等学校 第27回卒業証書授与式に係る式辞

立命館慶祥中学校・高等学校

校長 江川 順一

新型コロナウイルスによる感染症を予防するため、卒業証書授与式を、例年とは異なるかたちで行いますこと、どうぞご理解をいただきたく思います。オミクロン株による感染拡大の状況については、今なお予断を許しません。そのような中、卒業生の皆さん、そして保護者の皆様のご臨席を得まして、立命館慶祥高等学校の卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生や保護者の皆様にとっても、私ども教職員にとっても、大きな喜びとするところです。

ただいま、卒業証書を授与いたしました、第24期、309名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。

「意思のあるところに道がある」。これは、3年前の4月、齋藤伸幸学年主任が、24期生の学年スローガンと定めた「精神一到」という四字熟語の意味です。

このスローガンには「他に心を向けず、ひたすら心を集中し、どんなに難しいことでも成し遂げようと、力強く前進する人になって欲しい」という願いが込められています。あなたは、このスローガンが染め抜かれた臙脂色の学年旗のもとで、たくさんの集会や行事をこなしてきました。

あなたは「精神一到」を、行動や思考の真ん中に据えた3年間を、送ることができましたか？

これから、あなたの3年間を振り返ってみます。

3年前の入学式。慶祥高生としてのスタートと同時に、Co-Tanが稼働を始めました。ともに学び、語り、議論する場として竣工したばかりでした。この3年間、あなたは、あらゆる場面でCo-Tanを使い倒しました。緑と黒とが織りなすCo-Tanカラーに、最も親しんだのが24期生でした。

4月の宿泊研修は、夕張に出かけました。「夕張の課題を発見し、その解決を提案する」ことを目指し、フィールドワークを実施、グループ討議と発表を行いました。一貫生・高入生の別なく、バスごとに混ざり合った班をつくり、9つのクラスの壁をなくして一つになった。実は、24期生の出発点は、ここにありました。あなたはクラスを超えて「出会った仲間とのつながりを大切にする」ことを学んだのです。

夏には初めての立命祭。高1のテーマは、クラス展示企画。中高統一開催で「一体感」を味わいました。

2年前の4月。あなたは高2の春を迎えました。この時からコロナウイルスが世界中に蔓延し、「異常」が「日常」となった2年間となりました。

秋に実施予定だった海外研修は、海外への渡航困難のため中止。代替措置として切り替えた国内研修もまた、中止を余儀なくされました。それでも、あなたは「心の中にぽっかり空いた穴」を笑顔でふさぎ、「無念の思い」を飲み込んで、しっかりと受け止めてくれました。その気丈な姿勢に、私たち教職員は深く感服しています。

立命祭も同じです。この2年、学校祭については、公立も私立も、多くの学校で中止となりました。しか

し、慶祥では高2でも、高3でも開催することができました。これは、生徒会長の町田一郎さんはじめ生徒会が中心になって乗り越えるパワーと工夫、創造性に溢れるアイデアがあったからこそ実現できたのです。コロナ下にあっても、生徒会が決して諦めることなく「立命祭をやり切る」ことを最後まで貫いた成果でした。

また、部活動でも顕著な成績を残すことができました。あなたが高2の時、部活動の大会は、軒並み中止となりました。高3の先輩たちは、最後の試合の出場機会を奪われたのです。あなたには、その光景が目に焼き付いています。あなたは高3となって、2年ぶりとなる支部、全道、全国の大会で、かつての先輩の「無念の思い」も引き継いで集中し、全力を尽くすことができました。

コロナから2年経ち、立命館慶祥は、保護者の皆さまのご協力を得て、コロナが猛威を振るっても、全家庭がオンライン授業で対応できる仕組みが整いました。このシステムは、全国でも、間違いなく最先端を誇っています。あなたがこの2年間のオンライン授業で獲得した学びのスキルは、大学でも社会でも、齊しく求められるものです。是非とも、胸を張って次のステージに歩みを進めてほしいと思います。

あなたは、この3年間、「精神一到」というスローガンのもと、仲間とのつながりを大切にする人、そして、一つのことに集中し、どんなに難しくても成し遂げようと力強く前進することができる人になりました。このことを改めて、校長として申し述べたい。3年前の入学式の日。学年主任が、学年団の教員が願ったことが実現できたと思っています。

現代は、本日もまさに進行中であるウクライナ危機、大雪をもたらす気候変動の加速化、アジア系市民へのヘイトクライムなど、直面する課題が山積し、危機的状況にあります。

このような状況だからこそ、改めて思い出してほしい。立命館慶祥高校で、「世界に通用する18歳」を目指し、そのために「3つのC」である「Contribution」、「Collaboration」、「Challenge」を実践したことを思い出してほしいのです。

社会や世界に「貢献」する高い志をもち、人種・宗教・文化の違いを超えて、互いに議論し、「協働」して答えのない課題の解決に「挑戦」するのです。

最後に、改めて、問いたい。

「あなたは誰のために学び、誰のために生きるのですか？」

私は、あなたに、自分の可能性を追求し、新しい時代を切り拓く先駆者になってもらいたいと願っています。立命館慶祥の卒業生としてひたむきな眼差しをもち、胸を張り、そして自信をもって、先の見通せない社会に満を持して船出をしてほしいのです。

保護者の皆様、本当におめでとうございませう。卒業を迎えたお子様の立派な姿に感慨も一入のことと思います。また、コロナ禍にあつて、本校が選択し構築した教育活動に寄せられました皆様の深いご理解とご支援に対しまして、厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、私学は家族です。

そして、私たち教職員は、いつまでも皆さんの応援団です。

人生行路は、山あり谷あり。これから先、困難な場面に出会って辛くなったら、この学び舎に帰ってきて

ください。あなたのことを決して忘れない先生方が、ここで待っています。

それでは、希望に満ちた今日の旅立ちの日に当たり、この学び舎を巣立ちゆく皆さんの前途に幸多からんことを心から祈念して、私の『式辞』といたします。